

## ごみ処理基本計画の進行管理(平成28年度実績)

# 一般廃棄物(ごみ)処理基本計画

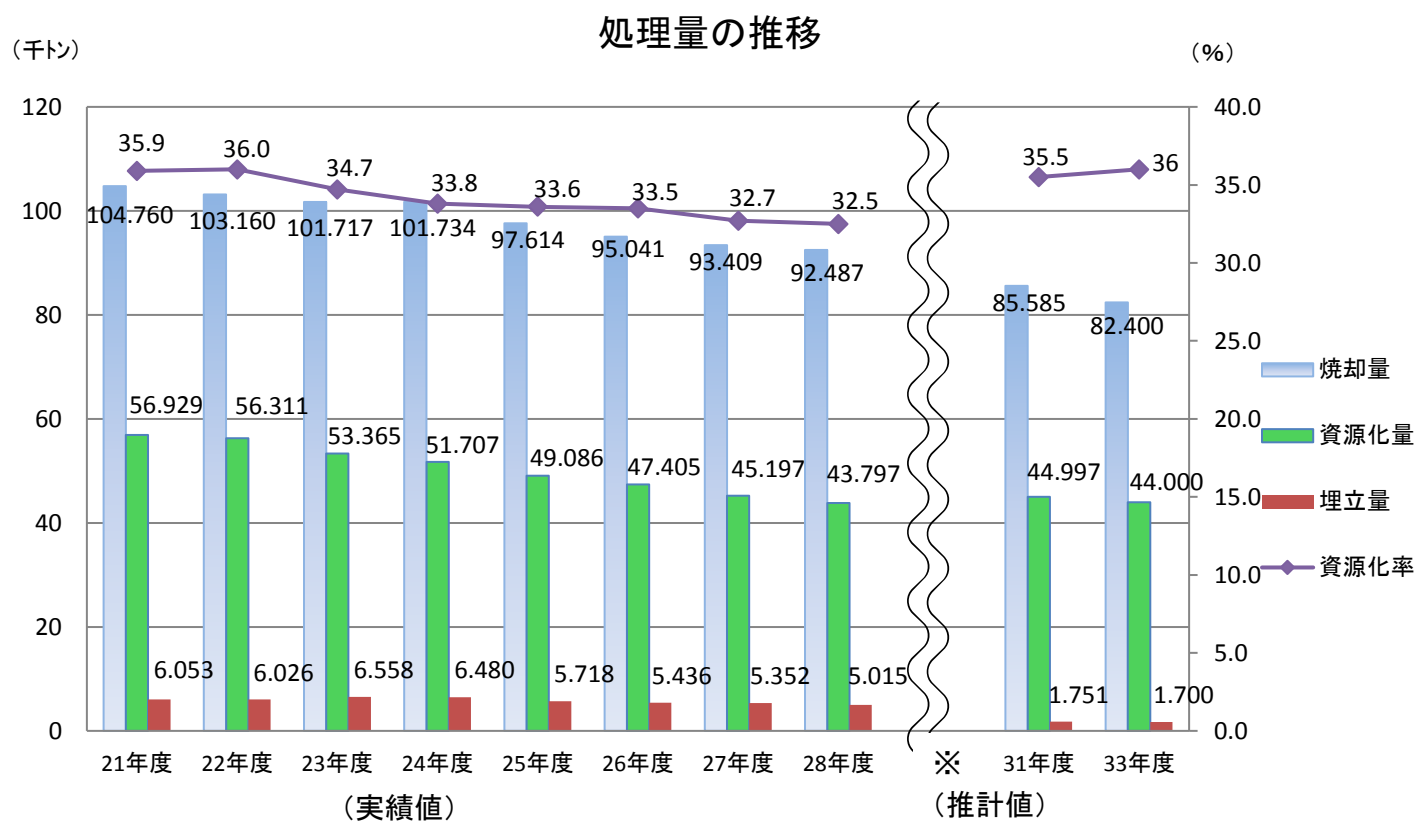
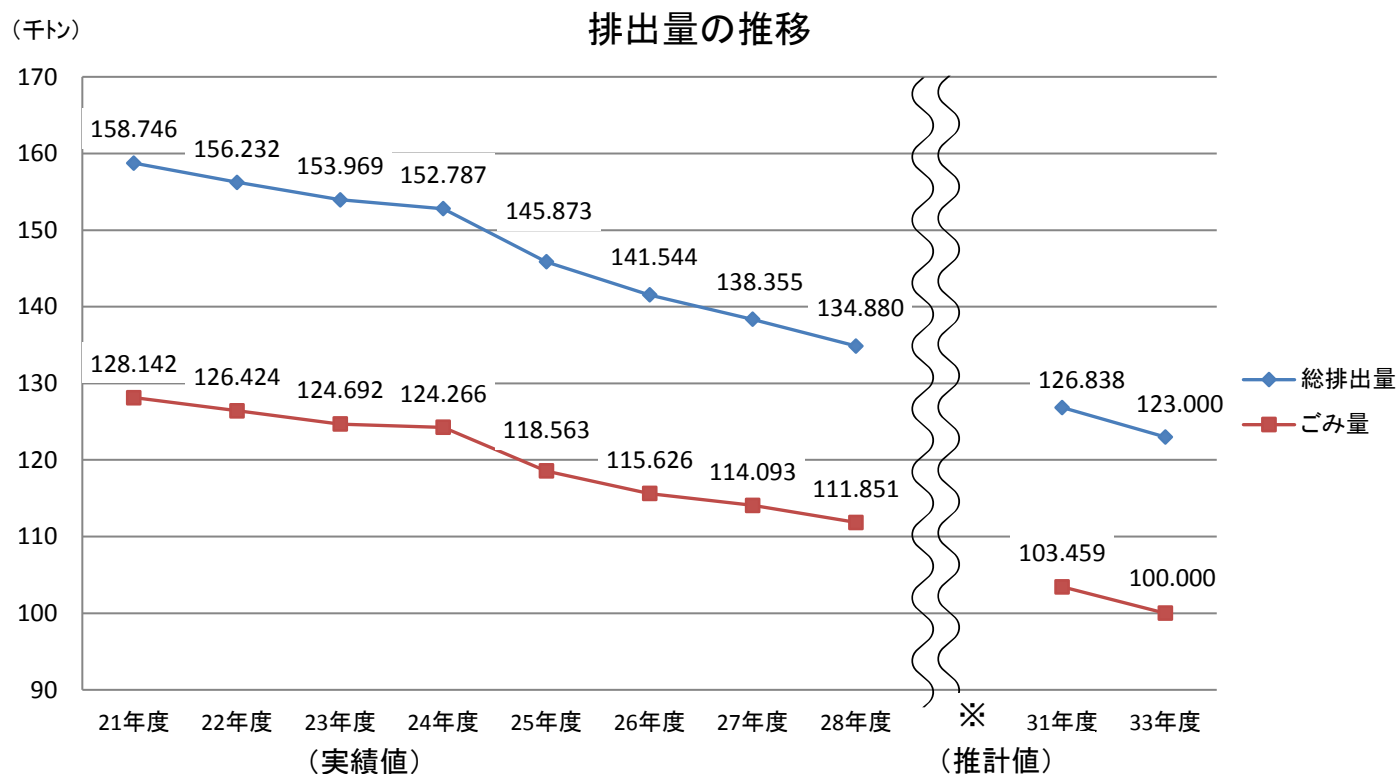
— 未来へつなぐ“循環型都市よこすか”の創造 —

資源循環部 資源循環総務課

平成29年 11月

ごみ処理基本計画の評価指標および実績値・目標値

項 目		単 位	平成25年度	平成26年度	平成27年度 (基準年度)	平成28年度	平成33年度 (目標年度)	
循環型 社会 形成	排出量	総排出量	t/年	145,873	141,544	138,355	134,880	123,000
		ごみ量	t/年	118,563	115,626	114,093	111,851	100,000
		集団資源回収量	t/年	27,310	25,918	24,262	23,029	23,000
		1人1日排出量 注1)	g/人・日	770	756	750	743	695
		1人1日総排出量 注1) (集団回収を含む)	g/人・日	947	926	910	896	855
	処理量	焼却量 (焼却率)	t/年 (%)	97,614 (82.3%)	95,041 (82.2%)	93,409 (81.9%)	92,487 (82.7%)	82,400 (82.4%)
		埋立量 (埋立処分率)	t/年 (%)	5,718 (4.8%)	5,436 (4.7%)	5,352 (4.7%)	5,015 (4.5%)	1,700 (1.7%)
		資源化量	t/年	49,086	47,405	45,197	43,797	44,000
	資源化率	資源化率	%	33.6%	33.5%	32.7%	32.5%	36%
	経済 性	注2) 処理単価	総処理経費	円/t	49,280	52,969	49,064	50,346
収集経費			円/t	25,831	26,249	27,073	27,603	—
中間処理経費			円/t	26,390	30,115	24,506	27,204	—
最終処分(埋立)経費			円/t	81,252	70,346	94,856	90,940	—
資源化経費			円/t	29,069	30,677	30,473	34,095	—
1人当たり年間処理経費			円/人・年	14,248	15,039	13,766	14,006	—
【参考】* 住民基本台帳人口		人	421,839	418,783	415,375	412,413	—	
* 将来推計人口 (H26年5月推計)			—	—	415,487	412,011	394,100	
注1) 「1人1日排出量」及び集団回収を含む「1人1日総排出量」の実績は、ごみ量及び総排出量を「住民基本台帳人口」で割っているが、平成33年度(目標年度)は「将来推計人口」(横須賀市都市政策研究所にて推計)で割って算出している。								
注2) 処理単価は、神奈川県一般廃棄物処理実績報告の作成基準に基づいて算定している。また、平成25～27年度の東日本大震災の影響により生じた追加的費用は、東京電力損害賠償金を減額して算出したが、平成28年度については、東京電力賠償金額が確定していないため減額していない。								



※ 平成31年度は、新ごみ処理施設の稼働予定年度

ごみ処理基本計画 関連施策・事業等の実施状況

(1) 計画の内容			(2) 取り			
施策種別	取り組み内容	記載頁	平成25年度	平成26年度		
へ第1章へ基本理念・基本方針	4 重点施策	①ごみ処理広域化計画による施設整備の推進 6				
		②廃プラスチック等の焼却による熱回収	29	新たなごみ処理施設整備に向けて、平成21年3月に策定した「横須賀市三浦市ごみ処理広域化基本計画」平成24年度に策定した「横須賀ごみ処理施設整備実施計画」に基づき建設計画を推進	新たなごみ処理施設整備に向けて、平成21年3月に策定した「横須賀市三浦市ごみ処理広域化基本計画」平成24年度に策定した「横須賀ごみ処理施設整備実施計画」に基づき建設計画を推進	
		③不燃ごみ等からの金属類の回収	29	新たなごみ処理施設整備に向けて、平成21年3月に策定した「横須賀市三浦市ごみ処理広域化基本計画」平成24年度に策定した「横須賀ごみ処理施設整備実施計画」に基づき建設計画を推進	新たなごみ処理施設整備に向けて、平成21年3月に策定した「横須賀市三浦市ごみ処理広域化基本計画」平成24年度に策定した「横須賀ごみ処理施設整備実施計画」に基づき建設計画を推進	
		②継続的な減量化・資源化啓発事業の実施 6				
		①市民・事業者への分別啓発	28	集団資源回収量 27,310トン	集団資源回収量 25,918トン	
		③植木剪定枝等新規資源化策の実施 6				
		④植木剪定枝の資源化	29	実施方法別(市による資源化と事業者の自己処分)の課題を整理	他自治体の訪問調査、バイオマス発電所の見学、資源化事業者ヒアリングを実施	
		⑤新たな減量化・資源化策の検討	30	新たに使用済小型家電、インクカートリッジの回収を開始	集団資源回収での廃蛍光管回収について検討	
		へ第4章へごみの発生・排出抑制のための施策	4 その他、市が講ずべき方策	市が講ずべき主な方策		
				①発生抑制に関する啓発	33	(第4章4(1)に記載)
②生ごみ等処理機器の購入費補助	33			電気式生ごみ処理機 78基、EM処理容器 20基、コンポスト容器 15基、小枝粉碎機 9基	電気式生ごみ処理機 59基、EM処理容器 12基、コンポスト容器 32基、小枝粉碎機 5基	
②食品ロスに関する情報提供、取組支援	33					
③国等への働きかけ(促進施策)	33			リターナブル容器普及拡大について要望	リターナブル容器普及拡大について要望	
市が講ずべき主な方策						
①再生家具の提供、古本・古着市の開催	33			再生家具158個提供、古本・古着市を3回開催	再生家具147個提供、古本・古着市を3回開催	
②国等への働きかけ(促進施策)	33			リターナブル容器普及拡大について要望	リターナブル容器普及拡大について要望	
へ第4章へごみの発生・排出抑制のための施策	4 その他、市が講ずべき方策			市が講ずべき主な方策		
				①庁舎内等におけるごみの減量化・資源化	34	古紙リサイクル 176,080kg、廃蛍光管 1,536kg(6,144本)※本数は、1kgあたり4本に換算して算出
		①グリーン購入の推進	34	対象品目18分野97品目で集計し、10分野46品目で90%以上を達成	対象品目17分野97品目で集計し、7分野34品目で90%以上を達成	
		①公共工事等における再生資源等の使用	34	公共工事はビニル系床材等で達成	公共工事は仕様を満たす適合品が無かった。	
		②リサイクルに向けた事業者の取組支援	34		事業者向け啓発用パンフレット9,000部作成	
		③国等への働きかけ(促進施策)	34	焼却灰溶融スラグの利用促進について要望	容器包装リサイクル制度の(円滑な運営のため)品質評価方法について要望	
		(1) 主な周知・啓発事業				
		①ごみ教室の開催、啓発冊子の発行	35	子どもごみ教室32回(2,156人)、啓発冊子5,000部作製	子どもごみ教室15回(1,056人)啓発冊子5,000部作製	
		②ごみ分別パンフレットや収集カレンダーの発行	35	分別収集カレンダー221,000部作製、パンフレット221,000部作製	分別収集カレンダー220,000部作製	
		③外国人向け分別パンフレットの発行	35	英語4,000部、中国語、韓国語、スペイン語、ポルトガル語250部作成	英語4,000部、中国語、韓国語、スペイン語、ポルトガル語250部作成	
④スマートフォン用にごみ分別アプリの配信	35		ごみ分別アプリ配信開始 ダウンロード数 4,787			
⑤広報紙やホームページによる周知啓発	35	広報よこすか12回32件 HP「ごみデータinよこすか」の更新	広報よこすか12回35件 HP「ごみデータinよこすか」の更新			
⑥ごみトークやごみ問題学習会の開催	35	ごみトーク42回(2,417人)、ごみ問題学習会19回(375人)	ごみトーク40回(2,828人)、ごみ問題学習会18回(420人)			
⑦アィクルフェアなどイベントの開催	35	アィクルフェアの開催 3回(8,700人)、クリーンよこすか市民のつどい 6月(584人)、中央会議 11月(616人)に実施	アィクルフェアの開催 3回(10,200人)、クリーンよこすか市民のつどい 6月(1,180人)、中央会議 11月(688人)に実施			
⑧市民協働による啓発活動(クリーンよこすか市民の会、ごみダイエット推進員)	35	ごみダイエット推進員研修会10回(247人)、施設見学会9回(124人)、アィクルマスター定例会 12回(39人)、イベント参加4回(13人)、ポイ捨て防止街頭キャンペーン(344人)	ごみダイエット推進員研修会10回(224人)、施設見学会2回(41人) アィクルマスター定例会 12回(36人)、イベント参加4回(14人)、ポイ捨て防止街頭キャンペーン(342人)			
⑨アィクル施設見学による分別排出の周知	35	147団体(9,659人) うち、小学生のリサイクル学習 45校 3,407人	145団体(9,710人) うち、小学生のリサイクル学習 45校 3,418人			

(注)1.平成29年3月改定のごみ処理基本計画で新たに設定した項目は明朝体で記載している。  
(注)2.評価基準 ○:実施している又は実施した。△:一部実施している又は一部実施した。×:実施していない。

組み実績		(3) 評価		
平成27年度(基準年度)	平成28年度			
新たなごみ処理施設整備に向けて、平成21年3月に策定した「横須賀市三浦市ごみ処理広域化基本計画」平成24年度に策定した「横須賀ごみ処理施設整備実施計画」に基づき建設計画を推進	新たなごみ処理施設整備に向けて、平成21年3月に策定した「横須賀市三浦市ごみ処理広域化基本計画」平成24年度に策定した「横須賀ごみ処理施設整備実施計画」に基づき建設計画を推進	○	予定通り実施	平成31年度の施設稼働に向けて、各種工事等を実施し、引き続き施設整備を推進した。
集団資源回収量 24,262トン	集団資源回収量 23,029トン	○	継続実施	人口減少等により、回収量は年々減少傾向にあるが、その他紙回収の促進に努めた。
事業系植木剪定枝について、民間施設での資源化に移行する方向で検討	事業系植木剪定枝を、民間の資源化処理に移行する方針を、計画に位置付けた	○	調査・検討を実施	事業系植木剪定枝を民間の資源化処理へ移行し、地域団体の清掃活動等で分別された剪定枝を資源化することをごみ処理基本計画に位置付けた。割れた廃蛍光管の資源化を検討した結果、平成29年9月より集団資源回収での回収を開始することとなった。
10月から新たに集団資源回収で廃蛍光管の回収を開始(10月～3月の半年間で、11トン回収)	集団資源回収での割れた廃蛍光管回収について検討	○		
(第4章4(1)に記載)	(第4章4(1)に記載)	○	継続実施	ごみを出さない生活スタイルを紹介するなど、ごみの発生抑制について啓発を行った。
電気式生ごみ処理機 53基、EM処理容器 6基、コンポスト容器 34基、小枝粉碎機 6基	電気式生ごみ処理機 56基、EM処理容器 5基、コンポスト容器 37基、小枝粉碎機 5基	○	継続実施	キエーロ講習会等を実施して生ごみ処理機器の普及に努めた。
	食品ロスに関するパネル展示、アンケート調査を実施	○	予定通り実施	アイクルフェアで食品ロス削減に関するパネル展示等啓発を行った。
リターナブル容器普及拡大について要望	リターナブル容器普及拡大について要望	△	継続実施	全都清などを通じ、要望を行ったが、未実現。
再生家具143個提供、古本・古着市を3回開催	再生家具154個提供、古本・古着市を3回開催	○	継続実施	アイクルフェアで再生家具を提供しているが、再生できる粗大ごみの家具が減少傾向にある。
リターナブル容器普及拡大について要望	リターナブル容器普及拡大について要望	△	継続実施	全都清などを通じ、要望を行ったが、未実現。
古紙リサイクル 174,880kg、廃蛍光管 2,749kg(10,996本)※本数は、1kgあたり4本に換算して算出	古紙リサイクル 164,040kg、廃蛍光管 3,498kg(13,992本)※本数は、1kgあたり4本に換算して算出	○	継続実施	庁舎内から出る古紙及び廃蛍光管の資源化を継続して実施した。
対象品目21分野97品目で集計し、10分野38品目で90%以上を達成 公共工事は仕様を満たす適合品が無かった。	対象品目21分野98品目で集計し、7分野38品目で90%以上を達成 公共工事については、2品目で100%を達成	○	予定通り実施	「横須賀市グリーン購入調達方針」において、毎年、対象品目や判断基準を見直し、全庁的にグリーン購入の推進に取り組んでいる。
事業者向け分別啓発パンフレット 9,000部作成	事業者向け外国語版分別啓発パンフレット1,600部作成	○	予定通り実施	事業者向け分別啓発パンフレットを配布し、事業者へ情報提供を行った。
容器包装リサイクル制度の(円滑な運営のため)品質評価方法について要望	容器包装リサイクル制度の(円滑な運営のため)品質評価方法について要望	△	継続実施	全都清などを通じ、要望を行ったが変更されず。
子どもごみ教室34回(1,894人)啓発冊子4,500部作製	子どもごみ教室31回(1,972人)啓発冊子4,500部作製	○	概ね予定通り、継続して実施	個々の啓発事業ごとに、減量化・資源化効果を測定できるものではないが、随時、必要な情報をタイムリーに周知・啓発や指導を行うことにより、ごみ排出量の減少と資源化率の維持につながっていると考えている。
分別収集カレンダー220,000部作製、パンフレット25,000部作製	分別収集カレンダー220,000部作製、パンフレット25,000部作製	○		
英語4,000部、中国語、韓国語、スペイン語、ポルトガル語250部作成	英語4,000部、中国語、韓国語、スペイン語、ポルトガル語250部作成	○		
ダウンロード数 2,897	ダウンロード数 3,700	○		
広報よこすか11回29件 HP「ごみデータinよこすか」の更新	広報よこすか12回35件 HP「ごみデータinよこすか」の更新	○		
ごみトーク32回(2,473人)、ごみ問題学習会17回(414人)	ごみトーク30回(2,366人)、ごみ問題学習会13回(265人)	○		
アイクルフェアの開催 3回(10,400人)、グリーンよこすか市民のつどい 6月(565人)、中央会議 11月(718人)に実施	アイクルフェアの開催 3回(9,500人)、グリーンよこすか市民のつどい 6月(546人)、中央会議 11月(670人)に実施	○		
ごみダイエット推進員研修会10回(248人)、施設見学会9回(124人)、アイクルマスター定例会 12回(44人)、イベント参加 3回(12人)、ポイ捨て防止街頭キャンペーン(346人)	ごみダイエット推進員研修会10回(218人)、施設見学会3回(62人)、ポイ捨て防止街頭キャンペーン(328人) ※アイクルマスターの高齢化により定例会は廃止した	△		
140団体(8,712人) うち、小学生のリサイクル学習 46校 3,175人	135団体(8,053人) うち、小学生のリサイクル学習 46校 3,211人	○		

(1) 計画の内容			(2) 取り		
施策種別	取り組み内容	記載頁	平成25年度	平成26年度	
へ第4章 策、市が講ずべき方	⑩南処理工場施設見学による適正処理の周知	35	30団体(1,520人)	27団体(1,338人)	
	⑪多量排出事業者に対する指導	35	減量化・資源化指導 201件	減量化・資源化指導 191件 多量排出事業所立入検査 46件	
	⑫集積所における排出指導	35	市民等への分別排出指導 417件、ごみ集積所の新設・移設等 253件、ごみ収納ボックス 494台・カラス除けネット 2,327枚 配付	市民等への分別排出指導 326件、ごみ集積所の新設・移設等 249件、ごみ収納ボックス 489台・カラス除けネット 2,266枚 配付	
	4 (2) その他の関連施策				
	①新たな減量化・資源化策の研究	35	(第1章4③に同じ)	(第1章4③に同じ)	
	②リサイクル法の周知・啓発	35	・パンフレット、HP掲載等による周知・啓発を継続実施 ・新たに小型家電リサイクル法について周知した	パンフレット、HP掲載等による周知・啓発を継続実施	
	③家庭ごみ有料化の検討	35	全国自治体の有料化導入状況の調査、県内で導入を検討している自治体の情報収集	全国自治体の有料化導入状況の調査、県内で導入を検討している自治体の情報収集	
	④廃棄物処理手数料の見直し検討	35			
	へ第5章 分別収集区分と資源化・適正処理				
	1 分別して収集するごみの種類と分別区分				
	ごみの種類・分別区分と排出方法	36	新たに使用済小型家電、インクカートリッジの回収を開始	平成25年度から変更なし	
2 (1) 収集・運搬計画					
①収集区域	37	行政区域内の全域(直営37.2%、委託62.8%)	行政区域内の全域(直営37.1%、委託62.9%)		
②分別区分ごとの収集方法・回数	38	新たに使用済小型家電、インクカートリッジの回収を開始	平成25年度から変更なし		
③不燃ごみの積替保管	38	搬入量 6,141トン 処理量 6,053トン	搬入量 5,513トン 処理量 5,436トン		
④収集運搬車両の低公害車使用	39	天然ガス自動車 15台 ハイブリッド車 0台 ディーゼル車(九都県市指定低公害車) 26台	天然ガス自動車 13台 ハイブリッド車 0台 ディーゼル車(九都県市指定低公害車) 31台		
⑤事業系ごみの取り扱い	39	減量化等計画書の提出 201件 一般廃棄物処理業者への指導 5件	減量化等計画書の提出 191件 一般廃棄物処理業者への指導 11件		
2 (2) 中間処理計画					
①再資源化施設(リサイクルプラザ“アイクル”)	39	搬入量 20,173トン 資源化量 19,633トン	搬入量 19,935トン 資源化量 19,336トン		
②焼却施設(南処理工場)	40	搬入量 105,450トン 焼却量 98,385トン	搬入量 102,929トン 焼却量 90,990トン		
③粗大ごみ処理施設(南処理工場)	40	搬入量 3,098トン 処理量 3,013トン	搬入量 2,931トン 処理量 2,965トン		
④その他民間施設での中間処理・再資源化	40	使用済み乾電池 97トン 使用済小型家電 2トン 集団資源回収品目(リサイクルプラザ搬入分を除く) 22,046トン	使用済み乾電池 98トン 使用済小型家電 21トン 集団資源回収品目(リサイクルプラザ搬入分を除く) 20,825トン		
⑤今後の予定	40	—	—		
2 (3) 最終処分計画					
	最終処分場	41	埋立量 5,718トン 破碎不適物処理 22トン	埋立量 5,436トン 破碎不適物処理 14トン	
3 現行のごみ処理施設の整備状況					
	(2) 施設の長寿命化・延命化対策	43	・南処理工場No.2ごみクレーン補修等 ・リサイクルプラザ 自動倉庫型受入供給装置コンテナ底板修繕(22基)	・南処理工場No.1ごみクレーン及びCバケット補修等 ・リサイクルプラザDCSシステム更新 ・リサイクルプラザ 自動倉庫型受入供給装置コンテナ底板修繕(22基)	
4 ごみ処理広域化計画に伴うごみ処理施設整備					
①焼却施設	43	・ごみ処理施設建設に向けた環境影響予測評価(環境アセスメント)に伴う環境調査、環境影響予測評価書案の作成、横須賀ごみ処理施設建設工事発注仕様書の作成、および横須賀ごみ処理施設技術審査委員会による審査等の実施	・環境影響予測評価書を作成して神奈川県へ提出 ・横須賀ごみ処理施設技術審査委員会による入札参加者の設計提案図書の審査等を実施		
②不燃ごみ等選別施設	43	・「横須賀市新ごみ処理施設建設計画対策協議会」と建設計画について協議の実施 ・町内会等を対象とした説明会の実施	・横須賀ごみ処理施設建設に伴う工事の実施および施設建設用地の取得 ・「横須賀市新ごみ処理施設建設計画対策協議会」と建設計画について協議の実施 ・町内会等を対象とした説明会の実施		

(注)1.平成29年3月改定のごみ処理基本計画で新たに設定した項目は明朝体で記載している。

(注)2.評価基準 ○:実施している又は実施した。△:一部実施している又は一部実施した。×:実施していない。

組み実績		(3) 評価		
平成27年度(基準年度)	平成28年度			
25団体(1,456人)	29団体(1,288人)	○		
減量化・資源化指導 207件 多量排出事業所立入検査 54件	減量化・資源化指導 203件 多量排出事業所立入検査 39件	○		
市民等への分別排出指導 330件、ごみ集積所の新設・移設等 292件、ごみ収納ボックス 486台・カラス除けネット 2,530枚 配付	市民等への分別排出指導 292件、ごみ集積所の新設・移設等 240件、ごみ収納ボックス 407台・カラス除けネット 2,388枚 配付	○		
(第1章4③に同じ)	(第1章4③に同じ)	○	調査・検討を実施	植木剪定枝や割れた廃蛍光管の資源化について調査・検討を行った。
パンフレット、HP掲載等による周知・啓発を継続実施	パンフレット、HP掲載等による周知・啓発を継続実施	○	継続実施	法・制度改正について、随時情報収集、周知を行った。
全国自治体の有料化導入状況の調査、県内で導入を検討している自治体の情報収集	全国自治体の有料化導入状況の調査、県内で導入を検討している自治体の情報収集	△	調査を実施	ごみの減少傾向及び新ごみ処理施設整備が進んでいることから、当面導入の予定はないが、将来的な検討の必要性を考慮して引き続き調査を行った。
	他都市の廃棄物処理手数料の状況調査を行った	△	調査を実施	施設に直接持ち込まれるごみ処理手数料について、処理経費を踏まえ検討していく。
10月から新たに集団資源回収での廃蛍光管の回収を開始	1月から環境省の水銀使用廃製品回収に係るモデル事業に参加し、2月以降は市施設等による拠点回収を開始	○	予定通り実施	水銀使用廃製品(水銀体温計・水銀温度計・水銀血圧計)の分別区分を不燃ごみから、拠点回収に変更し、水銀体温計1,868個、水銀温度計61本、水銀血圧計168個を回収した。
行政区域内の全域(直営37.2%、委託62.8%)	行政区域内の全域(直営37.0%、委託63.0%)	○	継続実施	引き続き、14地区を委託収集区域として定日ごみ収集を行った。
10月から新たに集団資源回収での廃蛍光管の回収を開始	平成27年度から変更なし	○	継続実施	市民の要望などを踏まえ、適正な収集方法・回数等を随時検討した。
搬入量 5,417トン 処理量 5,352トン	搬入量 5,090トン 処理量 5,092トン	○	予定通り実施	適正処理により、生活環境の保全を図ることができた。
天然ガス自動車 12台 ハイブリッド車 0台 ディーゼル車(九都県市指定低公害車) 33台	天然ガス自動車 8台 ハイブリッド車 0台 ディーゼル車(九都県市指定低公害車) 37台	○	予定通り実施	費用対効果やディーゼル車の環境性能の向上等を総合的に検討し、H23年度からは九都県市指定低公害車のディーゼル車への更新を進めている。
減量化等計画書の提出 207件 一般廃棄物処理業者への指導 1件	減量化等計画書の提出 203件 一般廃棄物処理業者への指導 1件	○	予定通り実施	1事業者あたりの廃棄物発生量が減少しており、各事業所で廃棄物を含めた環境負担軽減の取り組みが浸透してきた結果と考えられる。
搬入量 19,741トン 資源化量 18,956トン	搬入量 19,209トン 資源化量 18,777トン	○		
搬入量 101,296トン 焼却量 89,372トン	搬入量 100,336トン 焼却量 92,175トン	○		
搬入量 3,179トン 処理量 3,185トン	搬入量 3,114トン 処理量 3,095トン	○	予定通り実施	ごみ排出量は全般的に減少傾向にあるが、資源化量資源化率も減少している。
使用済み乾電池 91トン 使用済み小型家電 96トン 集団資源回収品目(リサイクルプラザ搬入分を除く) 19,339トン	使用済み乾電池 93トン 使用済み小型家電 19トン 集団資源回収品目(リサイクルプラザ搬入分を除く) 18,151トン	○		
ごみ処理施設の運用切替に伴う課題検討を始めた	ごみ処理施設の運用切替に伴う課題検討を進めた	○	調査・検討を実施	具体的な課題を抽出し、スケジュールに沿って検討した。
埋立量 5,352トン 破砕不適物処理 15トン	埋立量 5,015トン 破砕不適物処理 14トン	○	予定通り実施	適正処理により、生活環境の保全を図ることができた。
・南処理工場ごみクレーン及び粗大ごみクレーン補修等 ・リサイクルプラザ破袋機整備等 ・リサイクルプラザごみピット監視装置交換修繕	・南処理工場ごみクレーンBバケット補修工事等 ・リサイクルプラザ破袋機(A系)整備工事	○	予定通り実施	南処理工場については新ごみ処理施設の完成まで、また、リサイクルプラザについては当面の間、共に適正処理を確保しつつ、長寿命化・延命化のための補修工事等を実施した。
・横須賀ごみ処理施設建設に伴う工事の実施 ・環境影響評価(環境アセスメント)事後調査(工事中:大気汚染、騒音振動)の実施 ・「横須賀市新ごみ処理施設建設計画対策協議会」と建設計画について協議の実施 ・町内会等を対象とした説明会の実施	・横須賀ごみ処理施設建設に伴う工事の実施 ・環境影響評価(環境アセスメント)事後調査及び届出の実施 ・「横須賀ごみ処理施設建設対策協議会」と協議の実施 ・町内会等を対象とした説明会の実施	○	予定通り実施	平成31年度の新ごみ処理施設の稼働に向けて各種工事等を実施した。

(1) 計画の内容			(2) 取り		
施策種別	取り組み内容	記載頁	平成25年度	平成26年度	
〔第6章〕 その他ごみ処理に 関し必要な事項	1 廃棄物減量等推進審議会の運営				
		廃棄物減量等推進審議会の開催	46	第54回(基本計画進行管理、使用済小型家電・インクカートリッジの回収について、横須賀ごみ処理施設の整備)	第55回(基本計画進行管理、横須賀ごみ処理施設の整備状況、ごみ処理基本計画の改定、小動物死体処理事業の運用変更及び手数料改定)
	2 市民・事業者・市の協力体制				
		市民・事業者と協働の取り組み	46-47	「神奈川県におけるレジ袋の削減に向けた取組の実践に関する宣言」に賛同(H21.5.12~)し、レジ袋の削減を推進 「クリーンよこすか市民の会」と協働した清掃美化活動	「神奈川県におけるレジ袋の削減に向けた取組の実践に関する宣言」に賛同(H21.5.12~)し、レジ袋の削減を推進 「クリーンよこすか市民の会」と協働した清掃美化活動
	3 ごみ処理基本計画の進行管理				
		計画の点検・評価・見直し	47	平成24年度実績を基に計画の点検・評価を実施	平成25年度実績を基に計画の点検・評価を実施
	4 家庭ごみの有料化				
		家庭ごみ有料化の検討	49	(第4章4(2)③に同じ)	(第4章4(2)③に同じ)
	5 高齢化社会対策				
		高齢化社会への対応策検討	49		
	6 災害時の廃棄物対策				
		災害時の廃棄物対策	50-51	・横須賀市災害廃棄物等処理計画の策定に向けて、素案の見直し及び情報収集 ・横浜市、川崎市、横須賀市、藤沢市、鎌倉市、逗子市、大和市、町田市の8市による「災害時における廃棄物処理等に関する8市連携相互応援協定」の締結に向けての意見交換会に参加	・「横須賀市災害廃棄物等処理計画」を策定。 ・横浜市、川崎市、横須賀市、藤沢市、鎌倉市、逗子市、大和市、町田市の8市による「災害時における廃棄物処理等に関する意見交換会」に参加
	7 その他一般廃棄物関連事項				
		(1) 不法投棄対策の強化	52	・パネル展開催 10か所、警察との合同パトロールの実施 12回、ポスター掲出、移動式監視カメラ活用 ・巡回調査等 延べ23,751か所、処理量 77.73トン ・不法投棄防止対策として夜間監視パトロールを実施(1日間) ・不法投棄多発地域への環境ポスターの掲出5か所	・パネル展開催 10か所、警察との合同パトロールの実施 12回、ポスター掲出、移動式監視カメラ活用 ・巡回調査等 延べ24,145か所、処理量 63.08トン ・不法投棄防止対策として夜間監視パトロールを実施(1日間) ・不法投棄多発地域への環境ポスターの掲出5か所
		(2) ポイ捨て防止及び路上禁煙	52	・ごみゼロ啓発キャンペーン(5月) ・年末年始キャンペーン(12月) ・巡回回数 261回 喫煙中止件数 461件	・ごみゼロ啓発キャンペーン(5月) ・年末年始キャンペーン(12月) ・巡回回数 258回 喫煙中止件数 313件
	(3) 海岸漂着ごみの円滑処理	52	・(公財)かながわ海岸美化財団実施の海浜地清掃 169,776kg(ごみ等回収実績)	・(公財)かながわ海岸美化財団実施の海浜地清掃 115,596kg(ごみ等回収実績)	
	(4) 適正処理困難物および排出禁止物	52-53	受入内規の見直し(排出禁止物の追加、削除品目の検討)	受入内規の見直し(不燃ごみ搬入施設の変更)	
	(5) 廃棄物処理に関する制度改善要望	53	7件(延べ15件)について、県・国に制度改善要望を提出	5件(延べ11件)について、県・国に制度改善要望提出	



(注)1.平成29年3月改定のごみ処理基本計画で新たに設定した項目は明朝体で記載している。

(注)2.評価基準 ○:実施している又は実施した。△:一部実施している又は一部実施した。×:実施していない。

組み実績		(3) 評価		
平成27年度(基準年度)	平成28年度			
第56回(基本計画改定諮問、基本計画進行管理)、第57回(基本計画の見直し改定について、ごみ減量化・資源化に関する市民アンケートの調査結果)	第58回、第59回、第60回、第61回(基本計画の見直し改定について)、第62回(基本計画改定答申、基本計画進行管理)	○	予定通り実施	ごみ処理の現状と課題や横須賀ごみ処理施設の整備状況を踏まえて、ごみ処理基本計画の改定について審議をし、平成29年1月に答申を得た。
「神奈川県におけるレジ袋の削減に向けた取組の実践に関する宣言」に賛同(H21.5.12~)し、レジ袋の削減を推進 「クリーンよこすか市民の会」と協働した清掃美化活動	「神奈川県におけるレジ袋の削減に向けた取組の実践に関する宣言」に賛同(H21.5.12~)し、レジ袋の削減を推進 「クリーンよこすか市民の会」と協働した清掃美化活動	○	継続実施	市民・事業者への啓発活動を通じ、減量化・資源化、環境美化の実践につなげていく。
平成26年度実績を基に計画の点検・評価を実施	平成27年度実績を基に計画の点検・評価を実施	○	予定通り実施	計画の点検・評価を実施し、改定ごみ処理基本計画に反映させた。
(第4章4(2)③に同じ)	(第4章4(2)③に同じ)	△	調査を実施	ごみの排出量の傾向及び新処理施設整備から、当面導入の検討予定はないが、将来的に必要性を判断していく。
	高齢者のごみ出しについて福祉部と情報交換をした	△	調査を実施	ふれあい収集実施に向けて課題等を抽出して調査検討を行った。
・「横須賀市災害廃棄物等処理計画」に基づく「災害廃棄物処理等業務マニュアル」を平成28年度策定を目標に作成を開始 ・横浜市、川崎市、横須賀市、藤沢市、鎌倉市、逗子市、大和市、町田市の8市による「災害時における廃棄物処理等に関する意見交換会」に参加	・「横須賀市災害廃棄物等処理計画」に基づく「災害廃棄物処理等業務マニュアル」を作成	○	予定通り実施	「横須賀市災害廃棄物等処理計画」は今後も内容の見直しや、国、県等からの最新の情報に合わせて随時改訂を行っていく。 「災害廃棄物処理等業務マニュアル」は、「災害廃棄物等処理計画」を補完し、より具体的に災害時の対応や処理の流れを示すことで、迅速且つ適切な災害廃棄物処理を行うことを目的として作成した。
・パネル展開催 10か所、警察との合同パトロールの実施 12回、ポスター掲出、移動式監視カメラ活用 ・巡回調査等 延べ23,530か所、処理量 60.76トン ・不法投棄防止対策として夜間監視パトロールを実施(1日間) ・不法投棄多発地域への環境ポスターの掲出5か所	・パネル展開催 10か所、警察との合同パトロールの実施 11回、ポスター掲出、移動式監視カメラ活用 ・巡回調査等 延べ25,241か所、処理量 46.43トン ・不法投棄防止対策として夜間監視パトロールを実施(1日間) ・不法投棄多発地域への環境ポスターの掲出6か所	○	継続実施	不法投棄重点監視地域、夜間監視パトロール及び排出指導を行い、不法投棄の未然防止や不適正な排出状況の改善に努めた。
・ごみゼロ啓発キャンペーン(5月) ・年末年始キャンペーン(12月) ・巡回回数 260回 喫煙中止件数 465件	・ごみゼロ啓発キャンペーン(5月) ・年末年始キャンペーン(12月) ・巡回回数 263 喫煙中止件数 323件	○	継続実施	巡回指導1回あたりの喫煙者目撃数は平成27年度の1.78人に比べ、平成28年度は1.27人となり減少傾向にある。引き続き巡回指導を継続し路上喫煙者の減少に努める。
・(公財)かながわ海岸美化財団実施の海浜地清掃 115,985kg(ごみ等回収実績)	(公財)かながわ海岸美化財団実施の海浜地清掃 76,485kg(ごみ等回収実績)	○	継続実施	(公財)かながわ海岸美化財団による自然海岸の定期清掃を行った。
受入内規の見直し(受け入れる一般廃棄物の追加、削除品目の検討)	受入内規の見直し(受け入れる一般廃棄物の追加、削除品目の検討)	○	予定通り実施	各施設の実態に沿って、受け入れる一般廃棄物の追加、削除品目の検討をした。
8件(延べ14件)について、県・国に制度改善要望提出	8件(延べ13件)について、県・国に制度改善要望提出	○	継続実施	県市長会、全都清などを通じ、減量化・資源化に係る要望を継続した。

総合評価
<p>ごみ総排出量は年々減少傾向にあり、既に前計画(平成23年3月策定)の目標値144,000トンを達成したが、新たな計画(平成29年3月改定)の目標値に向かって引き続きごみの減量化に努めていく必要がある。</p> <p>資源化量および資源化率は、集団資源回収量の減少率が大きいこともあり減少傾向であるが、分別啓発の強化や改定計画に掲げた新たな資源化策を実施できるよう準備を進め、目標達成を目指していく。</p> <p>処理単価については、ごみの減量に伴って事業費も減少し、総事業費を押し下げる結果となったが、引き続き経費削減の努力が求められる。</p>

## ◎ ごみ処理実績について

### 1 排出量

#### (1) 種類別排出量

単位：トン

区分	年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	27年度対前年度比較	
							増△減	増減割合
燃せるごみ		98,814	94,751	92,246	90,667	89,399	△ 1,268	△ 1.4%
不燃ごみ		6,324	5,724	5,513	5,417	5,090	△ 327	△ 6.0%
資源ごみ		15,965	15,013	14,959	14,945	14,462	△ 483	△ 3.2%
	缶・びん・ペットボトル	7,260	7,043	6,955	6,914	6,621	△ 293	△ 4.2%
	容器包装プラスチック	8,593	7,861	7,882	7,911	7,724	△ 187	△ 2.4%
	乾電池等	101	102	113	113	110	△ 3	△ 2.7%
	その他	11	7	9	7	7	0	0.0%
粗大ごみ		3,163	3,075	2,908	3,064	2,900	△ 164	△ 5.4%
小計		124,266	118,563	115,626	114,093	111,851	△ 2,242	△ 2.0%
集団資源回収		28,521	27,310	25,918	24,262	23,029	△ 1,233	△ 5.1%
合計		152,787	145,873	141,544	138,355	134,880	△ 3,475	△ 2.5%

#### (2) 収集等形態別排出量

単位：トン

区分	年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	27年度対前年度比較	
							増△減	増減割合
定日収集		87,414	85,668	84,769	83,489	81,214	△ 2,275	△ 2.7%
	燃せるごみ	66,835	65,207	64,582	63,464	62,004	△ 1,460	△ 2.3%
	不燃ごみ	5,727	5,570	5,358	5,206	4,870	△ 336	△ 6.5%
	缶・びん・ペットボトル	7,055	7,034	6,949	6,909	6,617	△ 292	△ 4.2%
	容器包装プラスチック	7,797	7,857	7,880	7,910	7,723	△ 187	△ 2.4%
許可収集		26,260	23,029	20,959	20,691	20,435	△ 256	△ 1.2%
乾電池等収集		101	102	113	113	110	△ 3	△ 2.7%
粗大ごみ等収集		1,216	1,204	1,122	1,054	982	△ 72	△ 6.8%
臨時収集		887	845	923	817	799	△ 18	△ 2.2%
直接搬入		8,388	7,715	7,740	7,929	8,311	382	4.8%
小計		124,266	118,563	115,626	114,093	111,851	△ 2,242	△ 2.0%
集団資源回収		28,521	27,310	25,918	24,262	23,029	△ 1,233	△ 5.1%
合計		152,787	145,873	141,544	138,355	134,880	△ 3,475	△ 2.5%

#### (3) 他市受入れ量

単位：トン

区分	年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	27年度対前年度比較	
							増△減	増減割合
三浦市 燃せるごみ		-	7,836	7,888	7,887	7,849	△ 38	△ 0.5%

## 2 処分量（処理施設搬入量）

単位：トン

区分	年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	27年度対前年度比較	
							増△減	増減割合
焼却施設		101,734	105,450	102,929	101,296	100,336	△ 960	△ 0.9%
積替保管施設		6,324	5,724	5,513	5,417	5,090	△ 327	△ 6.0%
資源化施設		21,302	20,173	19,935	19,741	19,209	△ 532	△ 2.7%
粗大処理施設		3,185	3,098	2,931	3,179	3,114	△ 65	△ 2.0%
直接資源化		23,184	22,150	20,942	19,547	18,282	△ 1,265	△ 6.5%
合計		155,729	156,595	152,250	149,180	146,031	△ 3,149	△ 2.1%

注1) 資源化施設処分量には、リサイクルプラザに搬入される集団資源回収（段ボール、紙パック、その他の紙）を含む。

注2) 平成25～28年度の焼却施設量は三浦市分を含む。

## 3 資源化量

単位：トン

区分	年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	27年度対前年度比較	
							増△減	増減割合
リサイクルプラザ		20,836	19,633	19,336	18,956	18,777	△ 179	△ 0.9%
集団資源回収		23,079	22,046	20,825	19,339	17,702	△ 1,637	△ 8.5%
焼却灰スラグ化ほか		7,493	7,114	6,913	6,375	6,854	479	7.5%
粗大金属ほか		299	293	331	527	464	△ 63	△ 12.0%
合計		51,707	49,086	47,405	45,197	43,797	△ 1,400	△ 3.1%

注) 集団資源回収のうち段ボール、紙パック、その他の紙はプラザの資源化に含む。

## 4 資源化率

区分	年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	27年度対前年度比較	
							増△減	増減割合
資源化率		33.8%	33.6%	33.5%	32.7%	32.5%	△ 0.2%	
県内平均資源化率		24.8%	25.3%	25.7%	25.2%	-	-	
全国平均資源化率		20.4%	20.6%	20.6%	20.4%	-	-	

注) 資源化率 (%) = 【資源化量】 ÷ 【排出量合計(集団資源回収量を含む)】 × 100

## 5 1人1日排出量

単位：グラム

区分	年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	27年度対前年度比較	
							増△減	増減割合
集団回収を除く		800	770	756	750	743	△ 7	△ 1.0%
集団回収を含む		984	947	926	910	896	△ 14	△ 1.5%

### 【参考】

区分	年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
人口（人）		425,343	421,839	418,783	415,375	412,413
世帯数（世帯）		188,733	188,822	189,583	189,831	190,249

注) 人口及び世帯数は10月1日現在の住民基本台帳による。

## 【参考】

### 神奈川県一般廃棄物処理実績報告の定義に基づく生活系、事業系ごみの内訳

#### 1 生活系ごみについて

##### (1) 排出量

単位：トン

区分	年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	27年度対前年度比較	
							増△減	増減割合
可燃ごみ		66,848	65,241	64,639	63,494	62,015	△ 1,479	△ 2.3%
不燃ごみ		5,730	5,571	5,364	5,207	4,871	△ 336	△ 6.5%
資源ごみ		14,957	14,995	14,946	14,946	14,471	△ 475	△ 3.2%
粗大ごみ		3,070	3,003	2,844	3,004	2,850	△ 154	△ 5.1%
小計		90,605	88,810	87,793	86,651	84,207	△ 2,444	△ 2.8%
集団回収量		28,521	27,310	25,918	24,251	22,562	△ 1,689	△ 7.0%
合計		119,126	116,120	113,711	110,902	106,769	△ 4,133	△ 3.7%

注) 概ね、定日収集、粗大ごみ(収集・直接搬入)、乾電池等収集、集団資源回収の合計。

##### (2) 1人1日排出量

単位：グラム

区分	年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	27年度対前年度比較	
							増△減	増減割合
集団回収を含む		767	754	744	729	709	△ 20	△ 2.7%

#### 2 事業系ごみについて

##### (1) 排出量

単位：トン

区分	年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	27年度対前年度比較	
							増△減	増減割合
可燃ごみ		31,966	29,510	27,607	27,173	27,833	660	2.4%
不燃ごみ		594	153	149	210	219	9	4.3%
資源ごみ		1,008	18	13	10	9	△ 1	△ 10.0%
粗大ごみ		93	72	64	60	50	△ 10	△ 16.7%
合計		33,661	29,753	27,833	27,453	28,111	658	2.4%

平成 28 年度ごみ排出量及び資源化量の内訳

ごみの種類	排出量 (トン)		資源物	資源化量(トン)	資源化率
燃せるごみ	89,399	≫	焼却灰 (溶融スラグ)	6,777	5.02 %
粗大ごみ	2,900	≫	粗大金属	124	0.09 %
			金属チップ	203	0.15 %
			家具	4	0.00 %
缶・びん・ペット ボトル	6,621	≫	スチール缶	646	0.48 %
			アルミ缶	741	0.55 %
			びん(無色、茶色、 その他の色)	2,038	1.51 %
			ペットボトル	1,588	1.18 %
			ガラス残さ	1,128	0.84 %
容器包装プラス チック	7,724	≫	容器包装プラス チック	7,785	5.77 %
段ボール、紙パッ ク、その他の紙	4,864	≫	段ボール	3,459	2.56 %
			紙パック	84	0.06 %
			その他の紙	1,308	0.97 %
乾電池、小型家電	110	≫	乾電池	93	0.07 %
			小型家電	19	0.01 %
新聞、雑誌、古着 類、その他金属	18,154	≫	新聞、雑誌、古着 類・その他金属	17,702	13.12%
蛍光管類	18	≫	蛍光管類	18	0.01 %
不燃ごみ	5,090	≫	不燃金属	77	0.06 %
合 計	134,880		合 計	43,797	32.5%

\* 平成 28 年度 資源化率は、 $43,797 \div 134,880 \times 100 = 32.5\%$

## 県内19市の資源化率と原単位(1人1日排出量)

『神奈川県一般廃棄物処理事業の概要』を基に作成

平成26年度 (2014年度)			平成27年度 (2015年度)			
資源化率	原単位	集団回収を含む原単位	資源化率	原単位	集団回収を含む原単位	
1. 鎌倉 48.5%	1. 座間 737g	1. 座間 759g	1. 鎌倉 48.7%	1. 座間 718g	1. 座間 739g	
2. 三浦 41.4%	2. 横浜 743g	2. 綾瀬 779g	2. 逗子 43.0%	2. 横浜 735g	2. 綾瀬 772g	
3. 逗子 39.1%	2. 藤沢 743g	3. 海老名 810g	3. 三浦 40.4%	3. 藤沢 749g	3. 茅ヶ崎 816g	
<b>4. 横須賀 33.5%</b>	<b>4. 横須賀 778g</b>	4. 茅ヶ崎 820g	<b>4. 横須賀 32.7%</b>	<b>4. 横須賀 767g</b>	4. 海老名 821g	
5. 海老名 32.5%	5. 綾瀬 779g	5. 大和 836g	5. 海老名 32.5%	5. 綾瀬 772g	5. 大和 825g	
6. 座間 30.6%	6. 伊勢原 788g	6. 秦野 844g	6. 座間 30.8%	6. 逗子 775g	6. 秦野 845g	
7. 藤沢 30.2%	7. 川崎 796g	7. 横浜 881g	7. 藤沢 29.7%	7. 伊勢原 788g	7. 横浜 868g	
8. 綾瀬 28.7%	8. 逗子 801g	7. 伊勢原 881g	8. 綾瀬 28.8%	8. 川崎 790g	8. 川崎 873g	
9. 横浜 26.4%	9. 海老名 810g	9. 川崎 883g	9. 南足柄 26.0%	9. 茅ヶ崎 816g	9. 伊勢原 874g	
10. 南足柄 26.2%	10. 茅ヶ崎 820g	10. 相模原 892g	10. 横浜 25.5%	10. 海老名 821g	10. 相模原 892g	
11. 平塚 25.0%	11. 秦野 831g	11. 藤沢 894g	11. 平塚 24.9%	11. 大和 825g	11. 藤沢 898g	
12. 厚木 24.5%	12. 大和 836g	12. 平塚 898g	12. 厚木 24.4%	12. 秦野 831g	12. 平塚 901g	
13. 小田原 23.8%	13. 相模原 872g	13. 逗子 911g	13. 小田原 23.9%	13. 相模原 873g	13. 南足柄 908g	
13. 秦野 23.8%	14. 平塚 898g	14. 南足柄 925g	14. 秦野 23.6%	14. 平塚 901g	14. 逗子 914g	
15. 茅ヶ崎 22.0%	15. 南足柄 925g	15. 厚木 932g	15. 茅ヶ崎 21.9%	15. 南足柄 908g	15. 厚木 928g	
16. 伊勢原 21.9%	16. 厚木 932g	<b>16. 横須賀 952g</b>	16. 伊勢原 21.5%	16. 厚木 928g	<b>16. 横須賀 930g</b>	
17. 大和 20.8%	17. 三浦 939g	17. 三浦 977g	16. 大和 21.5%	17. 三浦 940g	17. 三浦 977g	
18. 相模原 20.3%	18. 小田原 1,015g	18. 小田原 1,015g	18. 川崎 19.8%	18. 小田原 1,003g	18. 小田原 1,003g	
19. 川崎 20.2%	19. 鎌倉 1,057g	19. 鎌倉 1,057g	19. 相模原 19.5%	19. 鎌倉 1,005g	19. 鎌倉 1,005g	
19市平均	25.7%	796g	888g	25.2%	789g	878g
県内平均	25.7%	804g	894g	25.2%	797g	884g
全国数値	20.6%	893g	947g	20.4%	888g	939g

注) 神奈川県一般廃棄物処理実績報告の原単位は、「推計人口」を用いているため、本市のごみ処理実績の1人1日排出量(10ページ)と一致しない。

## 全国の資源化率（人口10万人以上50万人未満）

平成27年度			
順位	県名	市名	資源化率（%）
1	岡山県	倉敷市	51.6
2	東京都	小金井市	49.4
3	神奈川県	鎌倉市	48.4
4	東京都	国分寺市	39.7
5	埼玉県	加須市	38.7
6	東京都	調布市	38.4
7	東京都	府中市	38.3
8	東京都	東村山市	36.8
9	東京都	西東京市	34.7
10	東京都	武蔵野市	33.9
11	東京都	三鷹市	33.9
12	東京都	立川市	33.2
13	埼玉県	朝霞市	33.1
14	<b>神奈川県</b>	<b>横須賀市</b>	<b>32.7</b>
15	兵庫県	宝塚市	31.7
16	神奈川県	海老名市	30.7
17	東京都	昭島市	30.6
18	神奈川県	座間市	30.4
19	北海道	苫小牧市	30.1
20	東京都	青梅市	29.8

\* 「一般廃棄物処理実態調査結果」（平成29年3月 環境省）を基に作成

\* 人口10万人以上50万人未満の239自治体中14位

## 県内19市のごみ処理経費(平成27年度実績)

『神奈川県一般廃棄物処理事業の概要』を基に作成

### 総処理経費

順位	市区町村名	1 t 当たり (円)
1	平塚市	29,800
2	小田原市	31,208
3	秦野市	33,313
4	川崎市	33,770
5	海老名市	34,439
6	南足柄市	34,499
7	相模原市	35,256
8	横浜市	36,908
9	伊勢原市	37,191
10	綾瀬市	40,323
11	厚木市	41,308
12	大和市	42,525
13	茅ヶ崎市	43,556
14	三浦市	45,624
15	座間市	47,545
<b>16</b>	<b>横須賀市<sup>注1)</sup></b>	<b>49,064</b>
17	鎌倉市	52,989
18	藤沢市	53,640
19	逗子市	58,404
1 t 当たり処理費		38,268

### 収集経費

順位	市区町村名	1 t 当たり (円)
1	小田原市	16,999
2	三浦市	18,225
3	海老名市	18,603
4	南足柄市	20,261
5	秦野市	20,409
6	相模原市	22,247
7	平塚市	23,320
8	綾瀬市	23,558
9	伊勢原市	25,727
10	座間市	26,861
11	逗子市	26,880
12	茅ヶ崎市	27,025
13	川崎市	27,052
<b>14</b>	<b>横須賀市<sup>注1)</sup></b>	<b>27,073</b>
15	大和市	27,885
16	横浜市	28,537
17	厚木市	31,575
18	鎌倉市	41,360
19	藤沢市	43,100
1 t 当たり処理費		27,451

### 中間処理経費

順位	市区町村名	1 t 当たり (円)
1	横浜市	9,428
2	南足柄市	9,513
3	平塚市	11,161
4	川崎市	13,167
5	小田原市	14,018
6	伊勢原市	15,794
7	秦野市	16,031
8	厚木市	16,116
9	鎌倉市	16,914
10	茅ヶ崎市	17,266
11	相模原市	18,672
12	海老名市	19,544
13	綾瀬市	20,623
14	大和市	21,600
15	藤沢市	23,835
16	座間市	24,041
<b>17</b>	<b>横須賀市<sup>注1)</sup></b>	<b>24,506</b>
18	三浦市	30,633
19	逗子市	31,835
1 t 当たり処理費		14,284

注1) 横須賀市は東電賠償金を減額して算出。



最終処分(埋立) 経費

順位	市区町村名	1 t 当たり (円)
1	相模原市	5,338
2	川崎市	11,083
3	秦野市	14,085
4	伊勢原市	15,678
5	大和市	16,262
6	厚木市	33,778
7	茅ヶ崎市	38,849
8	小田原市	39,241
9	三浦市	46,210
10	南足柄市	63,171
11	横浜市	65,261
<b>12</b>	<b>横須賀市<sup>注1)</sup></b>	<b>94,856</b>
13	平塚市	123,378
14	藤沢市 <sup>注2)</sup>	428,655
15	逗子市 <sup>注3)</sup>	862,855
16	鎌倉市 <sup>注4)</sup>	-
17	海老名市 <sup>注5)</sup>	-
18	座間市 <sup>注5)</sup>	-
19	綾瀬市 <sup>注5)</sup>	-
1 t 当たり処理費		47,881

1人当たり年間処理経費

順位	市区町村名	1人当たり (円)
1	川崎市	9,762
2	平塚市	9,827
3	横浜市	9,930
4	秦野市	10,142
5	海老名市	10,354
6	伊勢原市	10,727
7	相模原市	11,267
8	綾瀬市	11,388
9	南足柄市	11,461
10	小田原市	11,461
11	座間市	12,489
12	大和市	12,838
13	茅ヶ崎市	13,009
<b>14</b>	<b>横須賀市<sup>注1)</sup></b>	<b>13,766</b>
15	厚木市	14,035
16	藤沢市	14,696
17	三浦市	15,691
18	逗子市	16,556
19	鎌倉市	19,499
1人当たり処理費		11,052

注2) 藤沢市は埋立量が304 t と少ないが、最終処分経費は130,311千円あるため単価が高くなっている。

注3) 逗子市は埋立量が138 t と少ないが、最終処分経費は119,074千円あるため単価が高くなっている。

注4) 鎌倉市は埋立量が0 t だが、最終処分経費は527,437千円かかっている。

注5) 海老名市、座間市、綾瀬市は、3市で「高座清掃施設組合」を構成し、各市で組合分担金を支出しているが、組合分担金は中間処理費に分類している。

循環資源の再資源化の主な内容 (平成28年度実績)

